

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2月23日～3月1日)

2021年3月2日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談。(2/23)
- EU、対ベラルーシ制裁1年延長を決定。(2/25)
- ルカシェンコ大統領、国内五輪委員会の会合に出席(同会合において、会長職の辞任と長男ヴィクトル氏の会長就任、並びにヴィクトル氏の国家安全保障担当大統領補佐官からの解任も発表)。(2/26)

【ルカシェンコ大統領動静】

●天皇陛下へ祝電を发出。

祝電内容の要旨は以下の通り。

- ・信頼と理解を基盤とした両国の有益な対話の発展を確信している。
- ・チェルノブイリ原発事故から35年、東日本大震災から10年が経過し、両国の被災地の復興における相互支援に対し思いやりをもって受け止めている。
- ・ベラルーシと日本が直面した深刻な試練は、地理的に遠い両国を、精神的により近いものとした。

(2/23 大統領公式ホームページ)

●プーチン露大統領と電話会談

両者は、税制度、軍産複合体における協力、共同防衛システムの強化、連合国家における国民生活と経済主体の平等化について協議された。

(2/23 大統領公式ホームページ)

●ヴォリフォヴィチ国家安全保障委員会書記と会談

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・我々は、大統領が議長を務める国家安全保障委員会の機構、その機能等重要な問題について協議する必要がある。ロシアやカザフスタン、その他の国家の知見を基礎とし、国家安全保障委員会の機能に関する文書を磨いていく必要がある。
- ・ベラルーシがそれらの国の知見に立脚する前に、我々の条件に沿う形で整備する必要がある。国家安全保障委員会は、定期的に会議を催すべきであろう。そこでは、我が国の安全と防衛に関する基本的問

題が議論される必要がある。今日、安全保障は、食糧から経済的安全、そして軍事的脅威と非常に多方面に及ぶ。

・今年、非常に辛い時期において、ベラルーシ国内の安定と安全の保障は、非常に重要である。我々はこのこと(ベラルーシが非常に辛い時期にあること)を隠してこなかった。私は常に話してきた。これは、社会においてベラルーシ発展に関するある種の誤解があるからだけではなく、ベラルーシ情勢を不安定化させようとする国内勢力と、特に国外勢力の思惑があるためである。国外勢力がなければ、これほどの圧力はなかった。静かに色々な方法を試してベラルーシをぐらつかせようとしている。これはシグナルではなく、具体的行為である。

・幸いなことに、我々は全ての拠点を見つけた。我々はベラルーシから逃亡した者を知っている。しかし、知っているだけでは足りない。対抗する必要がある。我々は、ベラルーシ、ロシア、アルメニア、キルギス、ウクライナ、その他旧ソ連国の知見を考慮し、細かく検討する必要がある。

(2/25 大統領公式ホームページ)

●国内五輪委員会の会合に出席。

同会合において、ルカシェンコ大統領はベラルーシ五輪委員会会長職を辞し、後任の会長にはヴィクトル・ルカシェンコ(ルカシェンコ大統領長男)前第一副会長が就任することが決定。また、ヴィクトル氏が、兼務していた国家安全保障担当大統領補佐官から同日付けで退任することも発表された。

(2/26 Tut.by)

●ゲラシモフ国家統制委員会委員長と会談。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・昨年の成果はいかがであったろうか。予算と、国家資産についての評価はどうであろうか。

・また仲介業者の取り扱いはどうであろうか。仲介業者が、製品価格を30%まで上乘せしている。ベラルーシ国内の仲介を除く必要がある。

・封筒での手渡しの給料についても、責任を追求する必要がある。企業や起業家の方々が私の下にやってきて、どこの企業が封筒で給料を手渡ししていると文句を言っている。恐らく、給料を手渡しで受け取っている者に責任を負わせる必要がある。どこの国においても脱税は厳格に罰される。あなた方の協力無しでは秩序を整えることができない。

・政府は、不当な値上げを禁ずる決定をした。とくに薬については、消費税増税の後、薬局が値上げし始めた。中には30%も値上げしている薬局もあるようだ。

・貴委員長が大統領全権代表を務めるプレスト州について意見や評価を伺いたい。シュレイコ新知事の働きぶりはいかがであろうか。近く、各州を視察予定であり、グロドノの次にプレストに訪問する予定である。

(3/1 大統領公式ホームページ)

【外交】

●マケイ外務大臣、第46回国連人権理事会オンライン会議に出席。

マケイ外務大臣の発言要旨は以下の通り。

・誰かにとっては受け入れられないことかもしれないが、ベラルーシは、厳格な政治的、経済的圧力にもかかわらず、成長している。これは、ベラルーシ国民が自身の利益に関し、自身で決めているためである。

・ベラルーシは、この独立した姿勢に対し、外部からの攻撃を受けている。この攻撃の原因となったのは、一部の国民による大統領選の結果に対する不満である。現政権転覆を目的に、国内情勢不安定化のための可能な限り全てのメカニズムが動員された。しか

しベラルーシは耐え抜いた。我々は国と主権、独立を維持した。

・ベラルーシの都市は、全ての国民が労働を保障され、年金が付与され、無償教育・医療があり、世界で最も安全な都市であると、誇りをもって公表できる。

・ベラルーシは、新型コロナウイルスが最も激しかった段階においても、西側からの懐疑や批判にもかかわらず、国家としての社会的義務を維持することができた。西側諸国の施策は、全体的隔離、制限措置等であり、制度上の社会経済問題を露呈し、自国民に対する大規模な人権侵害へと繋がった。ベルギーや、ドイツ、スペイン、オランダ、ポーランド、フランスにおける街頭の無秩序は、彼らのメディアの紙面の内容と一致していない。それゆえ、人権問題に関連する国際的監督者の役割に対する西側諸国の請求は、自国の問題から目を背けるための入念に検討された作戦のように見える。

(2/23 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、外務省内で会議を開催。

マケイ外務大臣の発言要旨は以下の通り。

・我々は、世界的、地域的な不安定性の拡大、地政学的・経済的な競争の激化を感じている。そして、それらは、国際関係における緊張に繋がりと、世界の政策の力点が、パートナーシップから、厳しい競争へと移動していくことの証拠となる。

・大統領選挙の結果に対する過剰な反応の結果、ベラルーシは、制裁を含む大規模な外的圧力にさらされた。

(2/24 ベラパン通信)

●EU、対ベラルーシ制裁1年延長を決定。

(2/25 ベラパン通信)

【経済】

●1月、ベラルーシ国内平均給与、2020年12月対比、12.5%減少。

(2/24 ベラパン通信)

●1月、ミンスク市平均給与、2020年12月対比、12%減少。

(2/25 ベラパン通信)

●1月、ベラルーシ公務員給与、2020年12月対比、8.4%減少。

(2/25 ベラパン通信)

●2020年、赤字企業の赤字額、2019年対比、2.4倍に増加。

(2/25 ベラパン通信)

●2020年、ベラルーシとEU加盟国の貿易高、9.2%増加。

(2/25 ベラパン通信)

●2020年、ベラルーシ産業企業の累積負債額、2019年対比、20%増加。

(2/26 ベラパン通信)

●ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」への2020年の外国直接投資額、2019年対比、61%減少。

(2/26 ベラパン通信)

【内政】

●閣僚会議が実施され、ゴロフチェンコ首相がベラルーシ経済について発言。

・2020年末、企業の負債額は1600億ルーブルに上った。2020年始対比、19%の増加である。負債の負担を除去するため、行動計画を練る必要がある。各大臣、地方知事の皆様には、ぜひ積極的に同計画への参加頂く必要がある。これらの目標の達成は、2021年の経済に良い影響を与えるばかりか、5カ年計画の効率的な発展の基礎を作るであろう。

・対外、対内的要因等、類を見ない圧力にもかかわらず、2020年、安定的な経済が保障された。政府による提案は、大統領の支持を得、2020年下期には实体经济セクターの企業に対する制度的支援が実施された。政府による支援の総額は約20億ルーブルに上

る。

・マクロ経済の安定も確保されていた。貿易黒字は19億ドルに上り、GDP対比3.2%であった。そしてこれは、ベラルーシ史上最高の数字である。

(2/23 ベラパン通信)

●セルゲイ・チハノフスキー氏の拘留期間を4月末まで2ヶ月延長することが決定。

(2/26 ベラパン通信)

【抗議の動き】

●チハノフスカヤ元候補、ウクライナ人記者のインタビューに回答(インタビュー自体は2月14日、公開は2月23日付け。)

チハノフスカヤ元候補の回答概要は以下の通り。

・我々は、以前から米国ホワイトハウスと接触し、交渉を行っている。現在、我々を邪魔している唯一の問題は、ロックダウンである。

・新型コロナウイルスは、交流における多くの制限をもたらしている。多くの者が「あなた方(チハノフスカヤ氏)は、最も適切でない時期に革命を開始した」と言っている。しかし、我々が時期を選んだのではなく、その時期が来たのである。

(2/24 ベラパン通信)

●ラトウシュコ評議会幹部会メンバー(人民危機管理局長)、独ディ・ヴェルト紙のインタビューに回答。

ラトウシュコ氏の回答概要は以下の通り。

・我々はEUに感謝している。しかし、我々にとって重要なのは行動である。EUの制裁は足りていない。実質的に効果をもっていない。化粧的な施策である。制裁自体が目的ではない。制裁は、ルカシエンコ政権がベラルーシ国民をこれ以上苦しめないため、彼に対する圧力的手段であるべきであろう。

・制裁は、政権が交渉に乗り出すことを強要するべきである。ルカシエンコが国民と自ら良心的に対話することはありえない。国民との対話は、圧力の下でしか起き得ない。

・様々なレベルにおけるEU制裁について話している。

まずは、不当な判決を下した裁判官に対する措置が大切であろう。これは約 400 名に上る。多くの検察官が、制裁対象となろう。未だに平和的なベラルーシ国民の殺害事件に関し、提訴がない。

(2/28 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、独ビルト紙へのインタビューに回答。

チハノフスカヤ元候補の回答概要は以下の通り。

・ルカシェンコ政権は、今年終わるだろう。春には退陣するはずである。

・ベラルーシ国民は闘いに負けていない。我々は、ルカシェンコに選挙で勝った。彼は現在暴力によって政権の座についている。警棒や武器によって人々を街頭から追い払った。しかし国民は、抗議を継続し戦い続ける方法を見つけている。

・仮に、反政権の全員が様々な方法で行動すれば、内的圧力によりルカシェンコは退陣する。我々は大多数である。さらに、我々は、新たな米国や EU との力強い連合を期待している。圧力は日に日に強くなっている。

・多くのベラルーシ国民は現在悲観的で、何も変わらないと思っているかもしれない。しかし、状況は変わってきている。この 6 ヶ月で、国も、人も変わった。誰も、ベラルーシ国民の頭から自由と尊厳の考えを叩き出すことはできない。今起きている、過去と未来の間の闘いは、永遠に続くことはない。そしてその闘いは、未来のために終わる。

・我々は、EU に感謝している。EU との連帯は大きい。EU も官僚主義的機構であり、その行動に時間を要することを理解している。もちろん、我々としては、より大きな厳格さと制裁を見たいものである。

(2/28 ベラパン通信)

(了)